

高山市まちづくりアンケート調査
—報告書—

(団体アンケート編)

平成25年10月

高山市

目次

第1章 調査の概要

1 調査の目的	1
2 調査の期間	1
3 調査の項目	1
4 調査の方法	1
5 回収結果	1
6 標本の構成	2
7 その他	2

第2章 調査結果の分析

1 団体の活動について

1 活動に関し困っていること	4
2 活動を充実する上での支援策	5
3 他の組織との連携	6
4 協働でまちづくりをすすめていくうえで重要な施策	8

2 今後、高山市が取り組むべき重要課題について

1 今後の重要課題	9
-----------	---

3 将来に向けた高山市のまちづくりへの提言について

自由記述	11
------	----

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本アンケート調査は、高山市第八次総合計画の策定に向け、各種団体における意識の把握・分析を行い、第七次総合計画の評価・検証や今後の政策立案の基礎資料として活用することを目的に実施。

2 調査の期間

平成25年5月24日～6月14日

3 調査の項目

団体の活動について

- ・活動に関し困っていること
- ・活動を充実する上での支援策
- ・他の組織との連携
- ・協働でまちづくりをすすめていくうえで重要な施策

今後、高山市が取り組むべき重要課題について

将来に向けた高山市のまちづくりへの提言について（自由記述）

4 調査の方法

調査地域 高山市内全地域

実施方法 郵送による配布・回収、記名式

調査対象 市内に事務所を有する団体 250団体

（地区連合町内会、市民活動登録団体、福祉関係団体 など）

5 回収結果

発送数 250団体

回収数 157団体

回収率 62.8%

6 標本の構成

		回答数 (件)	構成比 (%)
主な活動地域 (複数回答)	高山市全域	58	26.0
	高山地域内	47	21.1
	丹生川地域内	9	4.0
	清見地域内	8	3.6
	荘川地域内	4	1.8
	一之宮地域内	8	3.6
	久々野地域内	8	3.6
	朝日地域内	8	3.6
	高根地域内	5	2.2
	国府地域内	5	2.2
	上宝・奥飛騨温泉郷地域内	11	4.9
	高山市及び周辺	32	14.3
	岐阜県内	10	4.5
	その他(※1)	9	4.0
	無回答	1	0.4
主な活動内容 (複数回答)	町内会活動	37	7.4
	保健、医療又は福祉の増進を図る活動	35	7.0
	社会教育の推進を図る活動	45	9.1
	まちづくりの推進を図る活動	59	11.9
	環境の保全を図る活動	53	10.7
	災害救援活動	22	4.4
	地域安全活動	29	5.8
	人権の擁護又は平和の推進を図る活動	8	1.6
	国際協力の活動	9	1.8
	男女共同参画社会の形成の促進を図る活動	8	1.6
	子どもの健全育成を図る活動	67	13.5
	情報化社会の発展を図る活動	13	2.6
	学術・文化・スポーツの振興を図る活動	35	7.0
	科学技術の振興を図る活動	5	1.0
	経済活動の活性化を図る活動	25	5.0
	職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動	16	3.2
	消費者の保護を図る活動	8	1.6
	市民活動団体を支援する活動	19	3.8
	その他(※2)	3	0.6
無回答	1	0.2	

		回答数 (件)	構成比 (%)
活動年数	1年未満	4	2.5
	1年以上～3年未満	9	5.7
	3年以上～5年未満	15	9.6
	5年以上～10年未満	42	26.8
	10年以上	81	51.6
	不明	4	2.5
	無回答	2	1.3
会員数	10人未満	11	7.0
	10人以上～30人未満	41	26.1
	30人以上～50人未満	29	18.5
	50人以上～100人未満	29	18.5
	100人以上	41	26.1
	不明	2	1.3
	無回答	4	2.5

「その他」の内容

※1 「世界」、「全国」、「県外」 など

※2 「まちなみ景観の保存活動」 など

7 その他

この報告書における「回答率」は、次の計算式により算出している。

$$\text{回答率} = \text{回答数} / \text{標本数}$$

回答率は百分率(%)で、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計値が必ずしも100%とならない。また、2つ以上の回答を求めたものについての合計値は100%を超える。

第2章 調査結果の分析

1 団体の活動について

1 活動に関し困っていること

- ・「活動資金が不足している」の割合が最も高い。
- ・次いで、「会員が減少・不足している」の割合が高い。

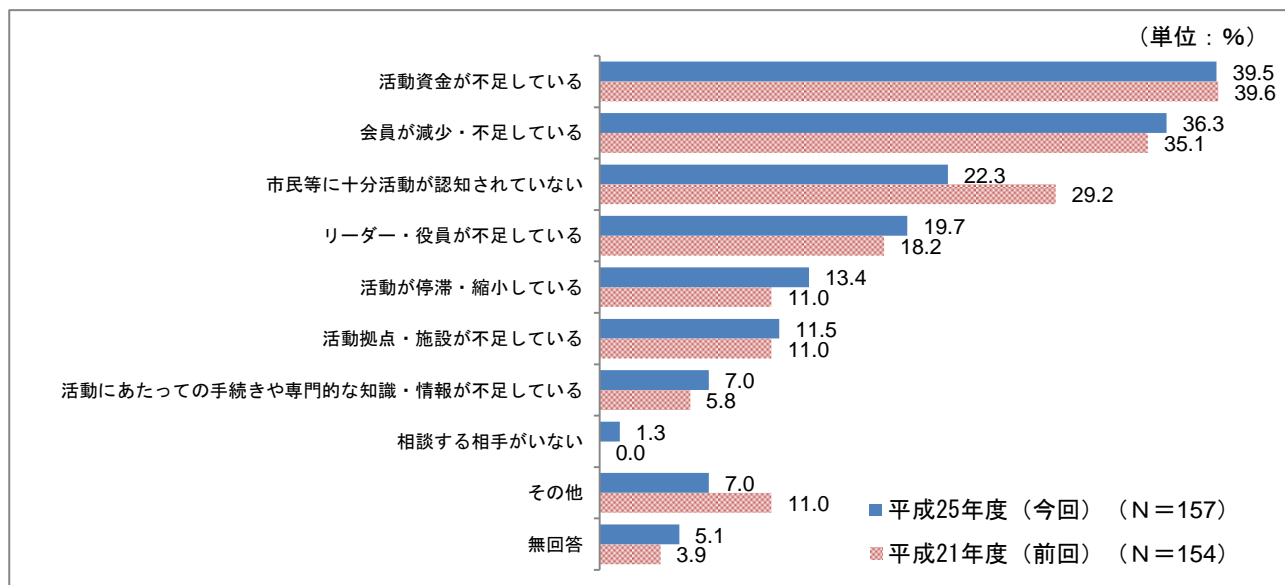
問1 貴団体の活動に関し、現在どのようなことに困っていますか。(2つまで○印)

	回答数 (件)	回答率 (%)
活動資金が不足している	62	39.5
会員が減少・不足している	57	36.3
市民等に十分活動が認知されていない	35	22.3
リーダー・役員が不足している	31	19.7
活動が停滞・縮小している	21	13.4
活動拠点・施設が不足している	18	11.5
活動にあたっての手続きや専門的な知識・情報が不足している	11	7.0
相談する相手がない	2	1.3
その他 (※)	11	7.0
無回答	8	5.1
計	256	

(標本数：157件)

※「その他」の内容

- ・「活動地域が広範囲で組織内の横の連絡がスムーズにできない」、「会員が高齢化してきている」など



2 活動を充実する上での支援策

- ・「地域に貢献する活動を行う上での経済的支援」の割合が最も高い。
- ・次いで、「市民などへの、貴団体の活動内容の広報・PRに関する支援」の割合が高い。

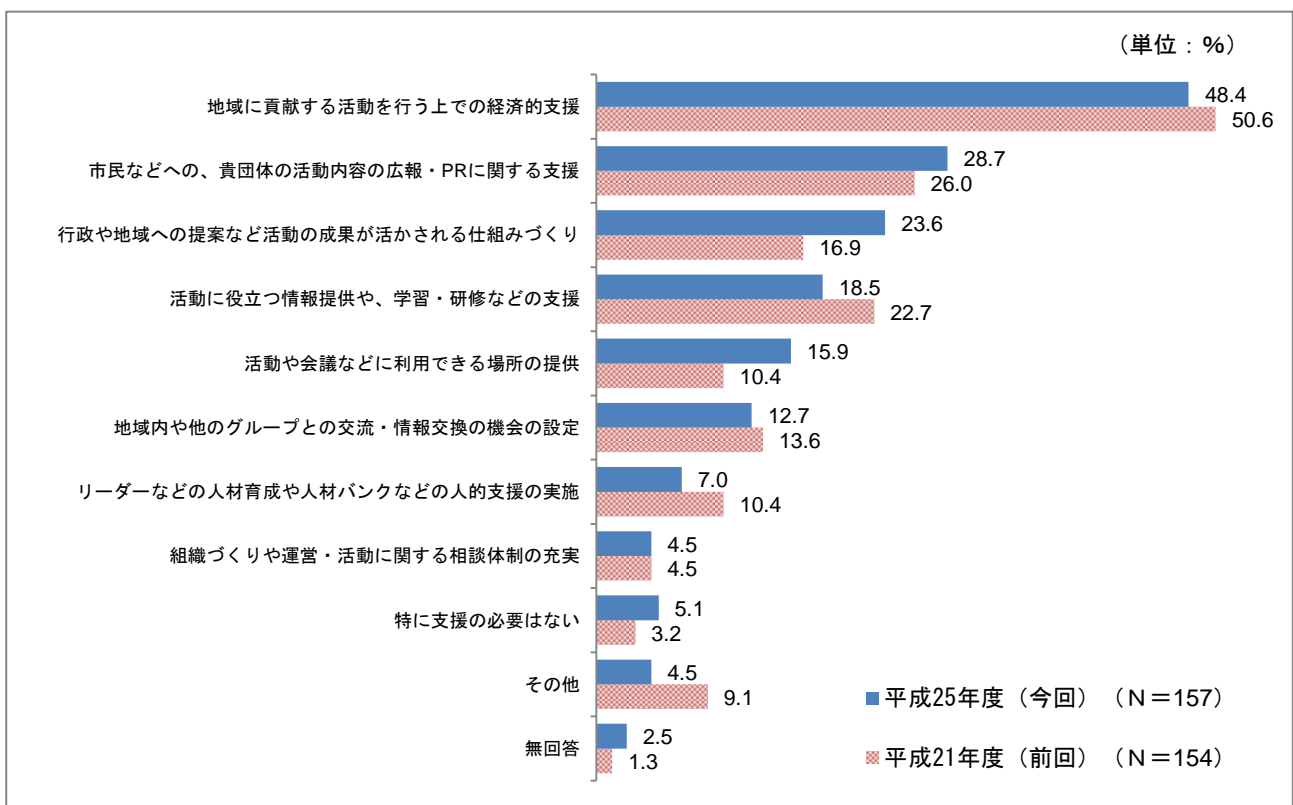
問2 貴団体の活動を充実する上で、行政にどのような支援を望みますか。（2つまで○印）

	回答数（件）	回答率（％）
地域に貢献する活動を行う上での経済的支援	76	48.4
市民などへの、貴団体の活動内容の広報・PRに関する支援	45	28.7
行政や地域への提案など活動の成果が活かされる仕組みづくり	37	23.6
活動に役立つ情報提供や、学習・研修などの支援	29	18.5
活動や会議などに利用できる場所の提供	25	15.9
地域内や他のグループとの交流・情報交換の機会の設定	20	12.7
リーダーなどの人材育成や人材バンクなどの人的支援の実施	11	7.0
組織づくりや運営・活動に関する相談体制の充実	7	4.5
特に支援の必要はない	8	5.1
その他（※）	7	4.5
無回答	4	2.5
計	269	

（標本数：157件）

※「その他」の内容

- ・「ボランティア活動を専門に行える人材の育成」、「行政とともに活動できる機会（行事）の充実」など



3 他の組織との連携

【A】現在の連携の状況

- ・「よくある」と「たまにある」を合わせた割合は、行政との連携が最も高く（81.5%）、企業との連携が最も低い（28.0%）。
- ・企業との連携及び学生などの若者との連携は他の組織等に比べ、「全くない」の割合が高い。

【B】今後の連携の必要性

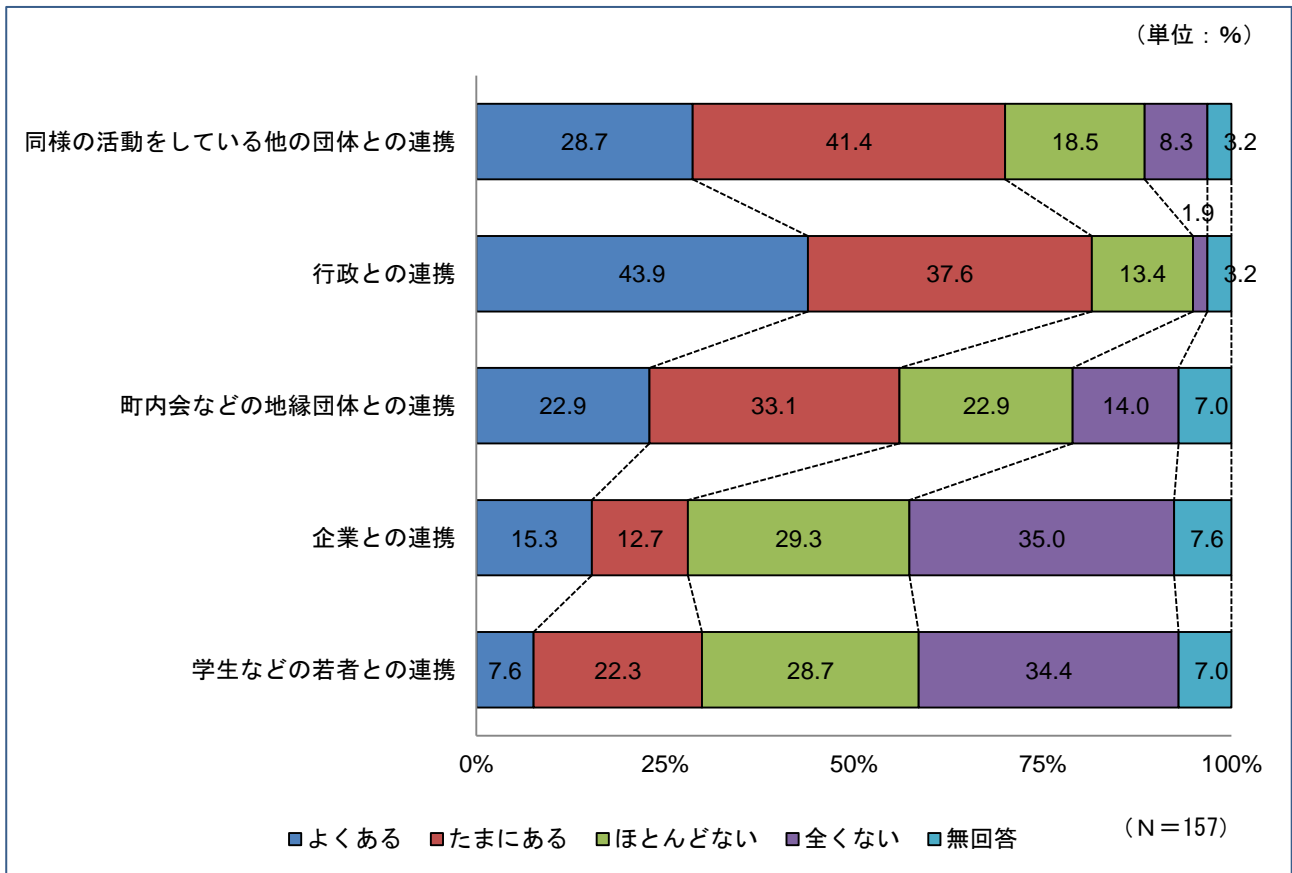
- ・「必要」の割合は、行政との連携が最も高く、企業との連携が最も低い。

問3 貴団体は、次の各項目の組織等と連携して活動することが、【A】現在どれくらいありますか。また、【B】今後連携が必要だとお考えですか。（あてはまる番号にそれぞれ1つに○印）

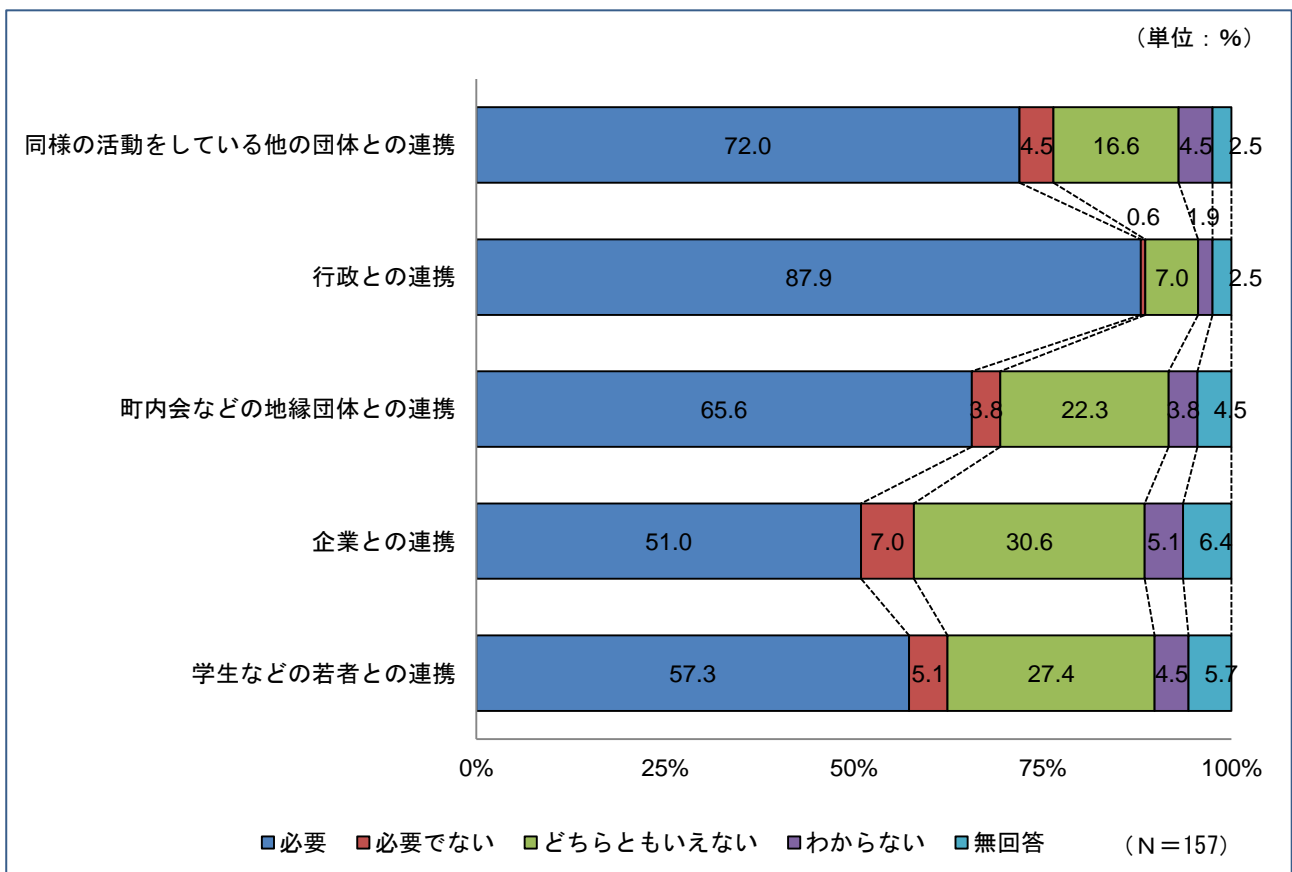
	【A】 現在の連携状況	回答数 (件)	回答率 (%)	【B】 今後の連携の必要性	回答数 (件)	回答率 (%)
同様の活動をして いる他の団体との 連携	よくある	45	28.7	必要	113	72.0
	たまにある	65	41.4	必要でない	7	4.5
	ほとんどない	29	18.5	どちらともいえない	26	16.6
	全くない	13	8.3	わからない	7	4.5
	無回答	5	3.2	無回答	4	2.5
行政との連携	よくある	69	43.9	必要	138	87.9
	たまにある	59	37.6	必要でない	1	0.6
	ほとんどない	21	13.4	どちらともいえない	11	7.0
	全くない	3	1.9	わからない	3	1.9
	無回答	5	3.2	無回答	4	2.5
町内会などの 地縁団体との 連携	よくある	36	22.9	必要	103	65.6
	たまにある	52	33.1	必要でない	6	3.8
	ほとんどない	36	22.9	どちらともいえない	35	22.3
	全くない	22	14.0	わからない	6	3.8
	無回答	11	7.0	無回答	7	4.5
企業との連携	よくある	24	15.3	必要	80	51.0
	たまにある	20	12.7	必要でない	11	7.0
	ほとんどない	46	29.3	どちらともいえない	48	30.6
	全くない	55	35.0	わからない	8	5.1
	未回答	12	7.6	無回答	10	6.4
学生などの若 者との連携	よくある	12	7.6	必要	90	57.3
	たまにある	35	22.3	必要でない	8	5.1
	ほとんどない	45	28.7	どちらともいえない	43	27.4
	全くない	54	34.4	わからない	7	4.5
	無回答	11	7.0	無回答	9	5.7

(標本数：157件)

【A】現在の連携の状況



【B】今後の連携の必要性



4 協働でまちづくりをすすめていくうえで重要な施策

- ・「地域のまちづくりのニーズを把握し、情報を共有する中で施策や事業を展開する」の割合が最も高い。
- ・次いで、「まちづくりへの市民参画を推進する」、「市民の役割、行政の役割を明確にし、それぞれが必要な役割を果たす」の割合が高い。

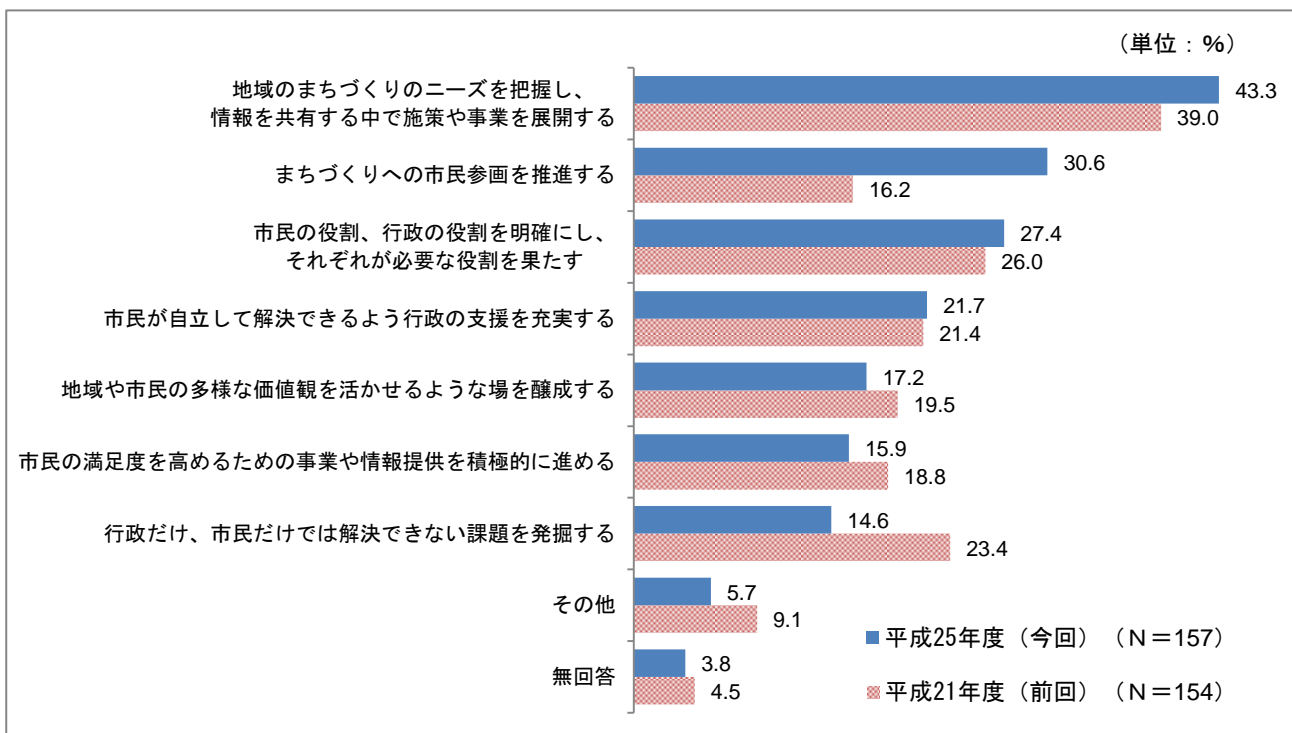
問4 市民と行政が協働してまちづくりをすすめる上で、何が最も重要とお考えですか。（2つまで
○印）

	回答数 (件)	回答率 (%)
地域のまちづくりのニーズを把握し、情報を共有する中で施策や事業を展開する	68	43.3
まちづくりへの市民参画を推進する	48	30.6
市民の役割、行政の役割を明確にし、それぞれが必要な役割を果たす	43	27.4
市民が自立して解決できるよう行政の支援を充実する	34	21.7
地域や市民の多様な価値観を活かせるような場を醸成する	27	17.2
市民の満足度を高めるための事業や情報提供を積極的に進める	25	15.9
行政だけ、市民だけでは解決できない課題を発掘する	23	14.6
その他（※）	9	5.7
無回答	6	3.8
計	283	

（標本数：157件）

※「その他」の内容

- ・「新たな事業を企画するより既存団体の有効活用を図る」、「共通認識の醸成」
- 「市民と行政双方の協力体制の構築」 など



2 今後、高山市が取り組むべき重要課題について

1 今後の重要課題

- ・「地域力の向上や魅力ある地域づくり」の割合が最も高い。
- ・次いで、「地域経済の活性化」、「雇用の場の創出」の割合が高い。

問5 今後、高山市がどのようなことに重点的に取り組むべきだとお考えですか。（3つまで○印）

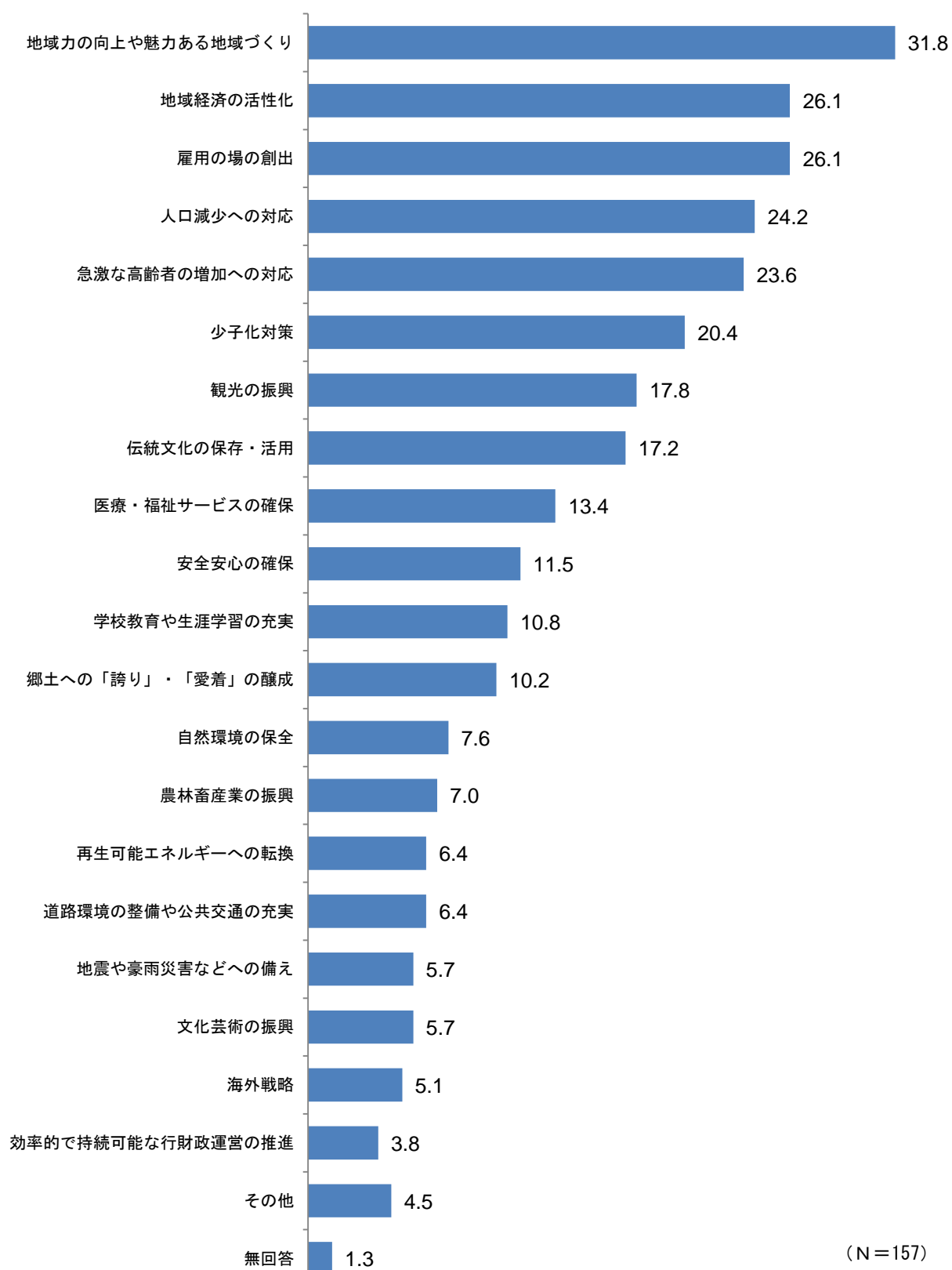
	回答数(件)	回答率(%)
地域力の向上や魅力ある地域づくり	50	31.8
地域経済の活性化	41	26.1
雇用の場の創出	41	26.1
人口減少への対応	38	24.2
急激な高齢者の増加への対応	37	23.6
少子化対策(妊娠、出産への支援、子育てしやすい環境づくり)	32	20.4
観光の振興(魅力ある観光地づくり、誘客促進)	28	17.8
伝統文化の保存・活用	27	17.2
医療・福祉サービスの確保	21	13.4
安全安心の確保(消防、防犯、交通安全)	18	11.5
学校教育や生涯学習の充実	17	10.8
郷土への「誇り」・「愛着」の醸成	16	10.2
自然環境の保全	12	7.6
農林畜産業の振興	11	7.0
再生可能エネルギーへの転換	10	6.4
道路環境の整備や公共交通の充実	10	6.4
地震や豪雨災害などへの備え	9	5.7
文化芸術の振興	9	5.7
海外戦略(外国人観光客の誘致、地元産品の販路拡大、国際交流)	8	5.1
効率的で持続可能な行財政運営の推進	6	3.8
その他(※)	7	4.5
無回答	2	1.3
計	450	

(標本数:157 件)

※「その他」の内容

- ・「社会的構造の変化についての現状認識の共有、理解」、「行政各部署、機関の連携」など

(単位：%)



(N=157)

3 将来に向けた高山市のまちづくりへの提言について

最後に、将来に向けた高山市のまちづくりについて、提言などがございましたらご自由にご記入ください。

福祉
<p>・「鉄砲町福祉町内会」、「片野町福祉町内会」という具合に、どの町内にも「福祉」という文言をつける。町内会の根拠に「福祉」を置くことで、町内の多くの人々は、福祉を考え、できる福祉を発見し、更に発展させる。そして、独自の福祉を考え、市内の全町内が共通した目的と願いを共有できる。ここに連帯意識がめばえ、より大きな力となる。押しつけでなく、自然発生的に福祉を考え、長い目で見守ることがベターと考える。そうすれば、どう行政がすべきかが見えてくる。</p>
<p>・障がい者や高齢者にとって住みよいまちは、一般の人々にとっても住みよいまちです。高山市に住む私達が誇りを感じることで、高山市はより魅力あるまちと評価されると思います。一人ひとりを大切にするまちづくりに私達も貢献していきたいと考えています。</p>
<p>・デートスポットや出会いの機会づくりが必要と思う。他都市で若者向け出会いイベントの工夫がさまざまあるようだ。高山もぜひ。</p>
<p>・子育て支援とは、親が楽をするためのハード的な支援であってはいけないと思います。親子で苦勞をともにするから、はじめて喜びにつながるのではないのでしょうか。子育てすることではじめて親として育つ。「個育て」ではいけないと思います。子育てすることが楽しいと思えるようなメンタルな支援をもっと進めてほしいと思います。「子育ては糖衣錠」。気付かないうちに、あっそうだったのかと思える支援が必要ではないのでしょうか。</p>
<p>・今の時代、子どもも大人も忙しすぎて、「家族で団らん」、「家族でゆったり過ごす」ということが少なくなり、親子のふれあいの時間が日常の煩雑さに追いやられているというのが現状だと思います。</p> <p>「大切なものは目に見えない」ということをいつも意識し、大人にも自分が子どもだった頃の良き時代を思い起こさせるような絵本などの紹介や読み聞かせ、子どもの心の中に森をそだてるような想像力を養うことが、大人と子どもの間にある距離感を縮めてくれるのだと思っています。そのことが子どもの気持ちを理解し、受け入れることにつながり、親子の信頼関係が生まれるのではないのでしょうか。信頼関係を子どもが確信することで、はじめて「子どもの生きる力」となります。</p> <p>将来を担ってくれる子どもたちの健全育成こそ、いま一番大切なことではないのでしょうか。成果はいつみえてくるか分かりません。10年先、20年先かもしれませんが、決しておざなりにできないことだと思います。高山市の子育て支援策の中にゆるぎないポストであるということの位置づけを期待します。また、心の根っこを育てるための支援を切にお願いします。</p>
<p>・晩婚化に伴って(?)人口減少がみられる。将来に対して産みやすく育てやすい政策を。特に安心して産むことができる政策を。</p>

・高山市も当分の間高齢化社会が続くと想像していますが、医療費の負担も増加の一途をたどることだろうと思います。各町内の老人会や趣味の会、ボランティアの会には、現役の時に培った知恵と「かいしょ」を持ち合わせている高齢者が沢山いますので、市が業者に委託する事業の中でできるものは委託したらいかがでしょうか。高齢者の健康増進にもなり、医療費削減にもつながると思います。多少の謝礼は必要かと思いますが、経費削減にもなり、団体としても収入が入り、喜ばれると思います。例えば市内にある児童公園の管理等です。現在活躍中の活動組織にも市としてもう少し助成してほしいと思っています。

- ・障がい者と健常者が共に助け合い暮らせるまちづくり。
- ・障がい者雇用に理解あるまちづくり。
- ・障がい者への理解を深めるための一般向けセミナーの開催。
- ・障がい者施設の充実を図るための支援。
- ・市長による各障がい者施設への訪問。
- ・市長による障がい者実態の把握。

・障がいのある仲間が日中通う作業所は、今後もニーズが増え、拡充の必要があります。特にこの先卒業する特別支援学校の生徒とご家族は、定員がいっぱいで既存の作業所にこれ以上は入れない状況に大きな不安を感じてみえます。

この問題を解決する方向性としては、第1に、ご家族や教員、その他の支援者等が協力し、絆を深めながら、資金集めや作業所のハード部分の準備を行います。すなわち、利用者の確保（5～10人）、場所と建物の確保、そして出来れば人材などを当事者である市民が準備し、利用者の特性に合わせた無駄のない作業所を作っていくのです。この時行政には、ハード面の整備への助成金、空き家状況、福祉制度の活用法などを分かりやすく説明してもらいたいのです。

そして第2に、当事者にとっては、作業所を運営するための組織を作ることが大きな負担になります。そこで、作業所の運営は既存の法人団体に行ってもらおうのです。

こうすれば、法人団体にとっては、新たな作業所を作る為のハード面の準備という財政的負担を軽減する事ができますし、当事者にとっては、法人組織をゼロから立ち上げ運営していくという負担を負わなくて済むわけです。

以上のような方向性を行政からも積極的に提言してもらい、助成制度や福祉制度の面で強力にバックアップして頂ければ、市民が主人公の、行政との効率的なパートナー関係を築きながら、社会資源の拡充ができるのではと考えます。

・「聴覚障がい者」ってどんな人かって市民としてあまり知られていないので、市の手話講座も開いています。聴覚障がい者は手話言語であるということを知ってほしいです。

・視覚障がい者が外出する際の環境整備の充実。（音声案内、点字ブロックの付設、危険箇所、危険物の排除）

健康、保健、医療

・環境変化に伴う市民の健康変化を分析して、次世代の安全安心な医療の確保を目指してください。

・高山厚生病院は5年以内にやめる方針（国）なので、地域にとって是非存続して欲しい。

・少子化の対策を考えると、産み育てることへの安心できる環境づくりも大切であるが、子どもが欲しくても授からない若い夫婦も多い。不妊治療への補助は現在も行われているが、高額な負担に苦しんでいる現実もある。将来のために更なる補助の充実を望みたい。

自然、景観、環境
・古い町並を売りにしている中、串焼（牛肉）やとても古い街に似合わないものが存在するのに違和感を覚える。
・古い町並だけでなく、全体としても統一感のある町並があるとよいと思います。てんでばらばらに好き勝手な建物が点在しているのが現状でしょう。
・新築の建物に対する建築基準（高さ、配色等）の見直し。
・近年街中（特に旧市街）に駐車場が増えていて、このままだと街として景観を崩す恐れがあると思います。古くなった空き家を駐車場にするのではなく、売りやすく買いやすくして新しく人に住んでもらえるような政策を作ってもらえないでしょうか。
・農林風景の保存。
・自然の宝石箱の飛騨高山というのは表面的な感がある。特に外国人の感想として、街の中に緑が無いことが指摘されている。駅西広場の整備の中核として、明治神宮の森にならい、飛騨の森づくりを強力に行う。
・せっかく自然が豊富なので、体験プログラムとか大自然を有効に使ったイベントなどをもっともっと充実すると嬉しいです。山の中に住んでいる子なのに山のことを知らない山の遊びを知らないというのは残念に思うので。体力・知力ともにたくましい子どもを育みたいです。
・また、ネイチャー体験を観光の中にもたくさん取り入れられるといいです。
・小型水力発電の普及。
道路、交通、情報
・中橋のかけ替えがあるが、できるだけ繁忙期をはずして工事して欲しい。
・今時の観光客は高山の街に何をめとめるのか……。観光のまちとして歩きやすい歩道やサイクリングコース等の整備が必要では？
・高山市は何と言っても観光が目玉の市です。将来的にも高山に魅力を感じ訪れて下さることを考えたまちづくりを進めること、市民自身も高山に誇りを持ちすみ易いまちづくりをしていくことの両面が大切だと思います。 鍛冶橋が新しくなりましたが、高山市にふさわしいものか疑問を感じます。カラーの道路もそうです。伝統的文化都市にふさわしい格調ある統一されたトーンでハード面も整備していくことができると思います。ハード面でもソフト面でも品格を高めてい視点が重要ではないでしょうか。
・情報格差解消、道路網整備が重要な問題と考える。
・光ファイバー等の通信網の整備。
・外国人観光客も大変増えていますが、市中心部以外に行く交通手段が少なく感じます。JRやバスで高山に来て下さる観光客には外国人も多く、そのような方々に高山の自然の豊かさなどをアピールしたいと思います。日本人観光客に比べ外国から観光に来て下さる方は高山での滞在時間も長めなので、ぜひ周辺地域も知ってもらいたいです。
・支所地域だけでなく、旧高山市内においても住んでいる地域によって公共交通機関が充実していないので（現在は医療機関への受診に合わせた時間割となっている）、健康な人も社会参加（就労を含む）をしようとすると自家用車に頼らなければならない状況です。高齢者の方や障がいのある方は買い物や行事の参加、就労など家族に頼らなければ行けない状況なので、生活面を意識した整備をお願いします。

<p>住宅、公園</p>
<p>・高山市は自然に恵まれ、住む人達の人柄もよく、大変住みやすい所だと思います。それは、寒い冬に耐え、昔ながらの生活や文化を大切にしてきた年配の方達の知恵や努力で培われてきたものだと私は思っております。しかしながら陸の孤島といわれた高山市も交通の便が良くなり、大変便利で快適な都市になってきました。それに伴い、生活も変わり、子ども達の遊びや考え方も変わってきて、それはもちろん高山市に限らず全国的に見られる現象ではありますが、このままでは高山の良さを引き継ぐ将来の担い手は少なくなるのではないかと懸念しております。将来を考えるにはまず、子ども達を考えなくてはなりません。全国的に大雪が降っても、将来の子は長ぐつにハバキをつけて元気に歩いて登校し、大喜びでスキーや雪遊びを楽しみます。そんな姿を見ている限り、高山の明日は安心だなと思う反面、ボール遊びも家の前でできず、自転車の練習も、縄跳も、車の往來を確認しながらしかできない環境にいる子ども達がかわいそうでなりません。我が家は北小區で、近所に子供が多く遊び場といえば北小か家の中。コンビニばかり増えて、買い食いしながらの交友です。</p> <p>そこで提案ですが、桐生町跨線橋下にある空き地を公園にしてもらえませんか。きれいな芝や遊具はいりません。木陰のための木とフェンスさえあれば子どもたちは自由に遊べます。どうぞご検討ください。</p>
<p>・奥飛驒は高山市に吸収された訳ですが、旧高山市内には、いくつも子どもが利用できる公園や児童館が多数あります。しかし、上宝支所内には子どもが遊べるスペースがあっても、奥飛驒には限られた日、時間でしか提供されていません。砂場すらない1つ遊具が置いてあるだけで、公園と呼ばれるものは1つとしてありません。車で20分かけて公園へ（支所）行けばいいのですか？児童センターの友達からの支援も今年は減り、ここまで来るのが大変、上宝・奥飛驒は1つになってやってもらえればいいのにも言われました。高山市内での20分の距離と、こちらの20分の距離がいかに違うか。誰でも分かると思います。高山市内の1つグループに比べ、奥飛驒1つでも、人数が少ないのは地域がら仕方のない事だと思います。子どもが少なくても子どもはいます！検診があれば市内まで1時間かけて行かなくてはなりません。子どもが少ないという理由でいつも負担をしいられるのは、奥飛驒や上宝の子ども達、その母親です。同じように税金を払い、取られるものは取られるのに、公園や児童館は全く作られないのはどうしてなのでしょう？人数が少なくても子どもは生まれ育っています。市内ばかりが充実した公園などを利用できるのではなく、もっとこちらにも目を向けてほしいです！</p>
<p>水道、衛生</p>
<p>・下水道が完備されている地域なのに河川、側溝へのたれ流し。（住民の不満、行政側分かっているはずなのに野放し状態。）</p>
<p>防災、安全</p>
<p>・異常気象対応の町づくり。</p>
<p>・公共情報 commons への参加。</p>
<p>・消防施設の見直しを今一度してほしい。今後保存区域で建物などが空き家になった場合の対策を考えてほしい。火災に強いまちづくりを考えてほしい。対策が不十分でないか。</p>
<p>観光</p>
<p>・高山線のSL機関車、観光客を乗せ飛驒全域を走るエコ自動車、飛驒の四季、自然、美味しい料理等、各地域の産業にもつながる観光の創出。特にPRすべきは、自然の美しさではないかと思ひます。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・物や形だけではない、もっと生活文化を売りにした観光企画を国内外に発信する必要があるのでは？
<ul style="list-style-type: none"> ・高山の経済の中心は観光産業であり、近年海外の観光客が増加している事も事実です。特にヨーロッパ系の人が増えているようで、この人たちは特に町中を歩きいろいろ体験をしたいと聞きました（テレビなどの情報です）。そこで、旧市街（特に下三之町や大新町あたり）の中に簡単な体験施設が出来ないでしょうか？新しく作るのではなく、既存の施設や民間の店舗などを使って短時間でいくつかを回ってもらいながら、観光客が滞在できるような街づくりが必要だと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・観光客誘致においては、当初国内が主でしたが、海外に目を向けてほしいです。「全世界」にPRしていただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・サインボードを見直してほしい。多言語だと看板が見えにくくなるので日本語と英語の表記のみでいいのではないか。（韓国語、アラビア、中国語は不要。日本に来て自国語があるのは不自然。サービス過剰です。）
<ul style="list-style-type: none"> ・民泊・簡易宿泊の設立における規制緩和（高齢社会となり、旅館業を営む経営者の跡継ぎの不足問題の解決策として）
<ul style="list-style-type: none"> ・高山独自のゆるキャラの作成。
<p>農林畜産業</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・不毛作地増加への対策が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・都市部の若者・学生及び退職した人々を対象とした農林畜産を体験できる場所、施設、環境を整備し、農林畜産への理解を図りながら交流を深め、高山に住んでみたいと思っただけのような状況をつくる。
<ul style="list-style-type: none"> ・山を破壊しない林業。（森の育成、伐木・搬出方法）
<ul style="list-style-type: none"> ・林業大学の設立。
<ul style="list-style-type: none"> ・林業の活性化、木材の活用。
<ul style="list-style-type: none"> ・森林あるいは樹木が、高山の宝となるような長期的な取り組みが面白いと思える。時の政治情勢や経済動向に影響されない断固とした取り組み。例えば農林課などという曖昧な立場ではなく、「森林課」を設置する。森林課は産業や観光などという従来の死語にとられることなく、ただただ「森林の高山の宝化」を目指す。高山市の大部分を占めるであろう森林は、夢の宝の山であることはおそらく間違いない。この眠れる山を動かすことが、十万市民の未来の安全と安心を保障する唯一無二の事業であろう。
<p>商工業、労働</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・駅舎建設に伴い駅西方面は発展すると思われるものの、本町通りの発展と観光客の誘致の為に、宮川朝市から本町までを容易に渡れる橋の検討を。将来的に高齢者が身近な（馴れ親しんだ）店舗で買い物ができるのが良いが、大型店舗が遠隔にできて、閉店に追い込まれる状況で不安があるので、ある程度の規制が必要と思われます。
<ul style="list-style-type: none"> ・観光の他に活性化につながる産業の目玉。（企業誘致等をすすめてほしい）
<ul style="list-style-type: none"> ・匠の技を生かした商品力向上と販売戦略。（若者を育てる）
<ul style="list-style-type: none"> ・国指定・伝統工芸品が2つもある市は数少ないのですが、施設などの具体的支援が無い地域は高山市ぐらいです。地元の伝統工芸が衰退していて本当に魅力ある観光地になるのでしょうか？魅力ある観光地＝伝統文化が根付くまちだと思うのですが・・・。

<p>・高山人としてのあたたかさ、人情のあるやりとりなど、仲間うちではわかり合いコミュニケーションしていますが、商売も知り合いだけで商いをして満足していることも有ります。観光客や他県とやりとりしているところだけが、勉強する場が多く、格差も感じます。市内で頑張っている企業家の方や他県に向けて成功している方の話を聞いたりすることや、高山ならではの良さを皆で認識する勉強会があるといいです。観光客の方が私達より高山の良さを知っていることもあるかもしれません。大型店や外部からの企業に高山の良さを失くさないよう、誇りとプライドを取り戻し、市外からのお金を集め、それを市内で回していくことが、まちづくりに求められることです。何を守り、何を变えていくのか行政がしっかりと枠を決めて下さると、良さをつなげつつ、アピールできる商売も生きてくると思います。飛騨高山から外に出て高山の良さがわかった人もたくさんいますので、まずはそういう方を集めてヒントのきっかけなる話を聞くのもいいと思います。自然豊かな人情ある本来の高山を取り戻してほしいです。</p>
<p>・伝統工芸品・地場産品の新展開や祝宴などの乾杯は高山の地酒で行うことを促進する。</p>
<p>・観光客だけに頼るのならもっと伝統芸能・工芸等を大切にしたい。</p>
<p>・地元の産物を利用しての独特な物の作成。</p>
<p>・大学を卒業して働くことができる企業、研究機関等の誘致に努力してほしい。</p>
<p>・子供達は高山へ帰って来たいが、見合った仕事がないから帰って来れない。もっと魅力ある職場があると良い。</p>
<p>・若者が将来を見据え、安定した生活が出来るように、企業の発展等を望むところです。政治、社会、景気とも関連していますが、仕事ができる場を望みます。</p>
<p>・若者の雇用の場が必要。</p>
<p>・現在最も大きな課題は、人口減少をどうくい止めるのかにあると考えます。そのため、若者（後継者）の流出をいかにくい止めるかが重要だと思います。今までも努力されてきたと思いますが、若者の雇用がなければ益々流出する悪い傾向が進みます。若者の雇用の図る「みち」を考え、総力をあげて知恵をしぼるべきと考えます。大企業は無理だとは思いますが、中小企業で高山の立地条件にあう企業の誘致が大切だと思います。このことが市の将来にとって最大の課題と考えます。土地の提供、交通の整備、税の優遇など最大限の配慮をして力を入れて欲しいと思います。また、現存の企業で若者を雇用された場合、補助金又は奨励金を出すことも考えていただきたいと思います。</p>
<p>・勤め先を産み出す工夫をぜひもっと。スキルを身につける講座や機会を増やし、終了後の就職あっせんも視野に入れた広い行政を。ワーキング・プアの現状も知られていないだけで、高山市でも多いのではないかと。問題が無いのではなく、声もあげられない貧しい家庭、女性、子ども、お年寄りを見つけ、必要な支援のできるあたたかい高山市としたい。国は公務員を減らしたいようだが、高山では、準公務員として、市民のために生き生き若いアイデアや情熱を発揮できる方々の登用を積極的に増やして欲しい。</p>
<p>・人口減少対策、少子化対策は先ず地域に働く場所の確保が第一であり、かつ、全てであると考えます。観光事業も大切であるが、若い人が定着すべき場所、働く所が・・・。60歳以上の社会的経験者が多くなります。そういった方の力を発揮できる場所、仕事を醸成する。</p>
<p>・雇用の場を創出し、若者を高山に定着させる。高山の広い地域（観光資源）を活用したい。</p>

<p>・山間部の集落は高齢化に歯止めがかからず、このままでは10数年後には集落の存続は難しくなります。若者をこのような地域に呼び込むには、魅力ある雇用の場が必要と考えます。このような雇用を作り出す企業や地域団体への支援を要望します。清見町大原地区には、20年前に若者の雇用の場として作られたパスカル清見があります。オートキャンプ場は4年ぶりに再開していただきましたが、ホテル施設は未だ休業したままとなっています。是非とも若者の雇用の場をつくり、地域を活性化させるため、再開をお願いします。</p>
<p>・空き家情報を提供し、若者の定住や結婚等を支援（定年退職者に空き家情報を提供することはやめてください）。高齢化が進むからといって、高齢者を支援して将来年寄りの町になるような真逆なことをせず、若者のまちを目指す。特化した所に集中的に行政活動をして下さい。若者が増えて、若者との交流が増えれば地元の年寄りも元気になりますよ！高山市出身者への情報提供などUターン、Iターンする若者への支援（定住条件をつけて）</p>
<p>学校教育</p>
<p>・若者が働けるような介護士等の学校、専門学校を作っては？頭脳流出は本当にもったいない！東京都と同じ面積の活用法はないものかと・・・。研究所を作るとか若者が活躍できるまちにしてほしい。</p>
<p>・京都大学と連携して研究施設の誘致。</p>
<p>・学校教育については、いわゆるソフト面だけでなく、施設、設備面での充実も大きな課題である。例えば、今では一般家庭でも当たり前になってきているエアコン、ウォシュレットという生活必需品が完備されている環境は少ない。一日の大半を過ごす学校での生活環境を良くすることは、福祉という観点からも意義あることと思う。是非実現に向けて努力して頂きたい。</p>
<p>生涯学習、スポーツ、文化</p>
<p>・高山市民憲章の一文に「からだをきたえ元気で働き、明るい豊かなまちをきずきましょう」がある。市民一人ひとりの健康と元気で働く環境が根底にあり、初めて高山市の活性化を促すまちづくり構想があると思う。昨年開催した「ぎふ清流国体、清流大会」が一過性にならないよう、スポーツに対する興味、関心、態度（行動）の醸成を図る必要があると考えている。</p>
<p>・現在高山市に生きて、とても誇りを感じています。自分は太鼓文化を介して日本全国と訪問させていただいております。先般訪問した沖縄では、全天候対応のスタジアムで郷土芸能を無料で披露して感激しました。例えば、市民文化会館、飛騨センター等のホールを無料開放して、お客様に郷土芸能の披露及び文化芸術の展示等を提供したらいかがでしょうか。もちろん無料シャトルバスは必要と思われます。</p> <p>他に、飛騨高山祭の森と連携して「日本のど真中太鼓競技大会」の開催を提案します。</p>
<p>・全国の学生のサークル活動、大学の活動を支援する。例えば、全国の大学、団体にいる芸術、芸能、IT関係（ソフト開発等）の卵達によびかけ、コンクール大会等を開催する。</p>
<p>・先人達が築き上げた飛騨の匠の文化が今も生き残っていること、飛騨人の持つ心やさしさ、自然環境や食文化、飛騨の匠の持つ伝統工芸品等々、目を見張るものが多く、高山は何べん行っても良い所と言われて数十年。高山の地に住む一人として、先人達の残してくれた旅人に対するもてなしの心や歴史と文化をもっと大切に、そして街づくりにも気をつけてほしいと思います。高山に住む人達をもっと自分の町を大切にす政策が必要だと思ひます。</p>
<p>・古い町並みの保存が大切なことは理解できますが、そこに住む住人の不便さは住人でなければ分かりません。住人の若返りによる生活様式の変化にともない、町並みからの転出が増加する今日、いかに若い人の生活が満足されるかが、今後の宿題だと思ひます。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・政教分離の原則があり難しいですが、高山祭の維持に対する資金的、人的な協力方法を考えてほしい。市の文化財について、学芸員の方が資料を整理、研究し、もっと掘り起しを図って欲しい。学芸員の資格を持つ人が本庁にいて研究が進んでいない。 ・まちの博物館寄贈資料の公開と整理をしてほしい（高山は全国的に見ても大変おこなっています。デジタル化を進めてほしい）。市民がもっと知ることにより、愛着をもち、郷土を守る心が目覚めると思います→20年後の観光につながる。
<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の文化財を保存・活用・宣伝（情報発信）することにより、高山市の歴史・文化・を学び財産となる。市民全員が国際交流員観光特使となり得ると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・太平洋戦争を主体にした戦争の遺跡や資料を活かし、これを高山の新しい観光資源、教育資源とすることを提案する。高山には太平洋戦争の遺跡として北山公園の地下壕があり（長野松代は観光にしている）、高山へB29が落としたりしたビラの不発弾がある。加えて、高山の木工業者が造った地下タンク、この三点は日本のどこにもない目玉遺品である。市民のタンスの中には戦争の資料や遺品が眠っている。が、今拾わないとゴミとして捨て去られる運命にあり、早く収集に努めるべきだ。これらは私達の先代がいのちをかけてたたかった尊い遺品である。これらを活用していくことは現代人の大きな課題である。これらをまとめて、「戦争資料館」或いは「平和資料館」として創立させてはどうか。北山の地下壕を開発する事により、安川より西、八幡神社を中心とした地域の活性化につながるのではないか！！昇竜道プロジェクト構想も練られている中で、中部地区には大きな戦争資料館はない。九州や関東にはあるが、いまここでこそ構想に活用するならば、百年後、二百年後、さらには、人類の未来のために大ききしずえとなると思う。全力投球しても将来に無駄になるような構想ではない。
<ul style="list-style-type: none"> ・大新町二丁目の宮地家住宅を春から秋までは終日開館した方が良いという意見があります。特に修学旅行生が行ったけれど休館日だったとがっかりして帰っていくそうです。観光客に下町方面へ来てもらうため、終日開館を要望します。また、宮地家住宅の管理人は正式な非常勤雇用で運営してほしいとの要望があります。市役所職員OBでは管理がルーズになっているとのこと。私物化されているので良くないとの意見があります。
<p>地域、市民参画</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・生涯設計は個人が自立して立てられるが、それとともに「お互い様」「お元気ですか」と挨拶できるような社会でありたい。組織の活動資金についても支援をお願いしたい。ボランティア活動は、格差社会のなかで必要不可欠です。
<ul style="list-style-type: none"> ・観光都市飛騨高山にあつて、高根は自然環境に恵まれ、チャオ御岳スノーリゾートや奥飛騨観光開発、無印良品キャンプ場等、全国的に知名度がある施設があり、交流人口つまり観光客にとってはありがたいのですが、地域の人口は合併時の半数以下となり、高齢化率も50%以上です。当組織も会員の減少や高齢化により、近い将来、活動に支障が来るでしょう。行政の財政的支援や人的支援を強くお願い致します。
<ul style="list-style-type: none"> ・合併後やがて10年をむかえます。社会教育を運営する中で、助成金をいただき、地域からも会費をいただきながら行事を遂行しております。市からの助成金の用途が規制されすぎと考えます。もっと地域を信頼し、地域にまかせていただくと有難いです。お金の使用方法を上手く指導願います。地区としては、町内会、地区社教の連携が第一と考えます。（まずはですが）
<ul style="list-style-type: none"> ・苛めや差別のないまちづくり。

<p>・私達の団体では現在地域づくりに向けて議論を進めておりますが、将来の高山のまちづくりを考える上で、今までのような女性部という組織が必要なのかと日々頭を悩ませております。男女共同参画の面から見ても、地域づくりのなかで女性の本来の力を出していくため、今、男女共にそれぞれの役割を果たせる地域づくりについて考える時かと思えます。</p>
<p>・高齢者、高齢独居家庭が増加し、地域活動への参加も困難な状況が出てきている。ましてリーダー、役員としての参加を望むことは不可能な地域もある。今後、自助、協働という地域のあり方が提言されるのであれば、こうした現実の中で地域・町内の組織改編を含む大きな課題である。</p>
<p>・少子高齢化、若者の減少は全国で進んでいる現象ですが、地域によって大きな差があると思えます。私の住んでいる朝日町は高山市の中でも急速に進んでいる地域であると感じています。このまま何の対応もしなくて進んでいきますと、20年先にはどうなってしまうのか心配になります。住民と行政が一体となって今何をしなければならぬのか真剣に考え、対策を進めていくことが重要であると思えます。</p> <p>それには今高山市が進めていこうとしている協働のまちづくりもあると思えます。</p>
<p>・町内会活動は、高齢化により、役員（町内会、社教、神社等）選出および社教行事参加者の減少など課題はあるが、みんなが知恵を絞りあい、協力しあう事で運営している。「協働のまちづくり」では、新たに地域自治組織ができるようであるが、これにより役員が増えることは大きな負担となる。新しく組織を発足するのならば、現状の組織の見直しとスリム化、わかりやすい仕組みづくりを願います。町内会の役員は、生活の糧となる仕事を持っているため、時間・労力に限りがあります。あくまでも、ボランティアで行っていることを忘れないでいただきたい。</p>
<p>・協働のまちづくりに向けた組織づくりをすすめる。</p>
<p>・「協働のまちづくりに向けて～地域という観点から～」というテーマのもとに24年度は高山市の地域基幹組織を中心に説明会（学習会）が開催されました。しかし、内容が高度で具体性を欠いていたため、何か釈然としない部分が多く、むずかしい内容の話だったと感じた人が多かったのではないかと感じています。従って今後は、今の高山市に協働のまちづくりがなぜ必要なかをみんなで考える必要があると考えています。昨今、「無縁社会」、「地域コミュニティの希薄化」が大きな課題となっておりますが、国政では、相次ぐ自然災害から「地域の絆」を深めることの大切さも強調されています。地域の間人関係の希薄化により、地域の人々の間に無関心や不信感が広がり、「思いやり」や「信頼関係」が失われつつあると思われます。従って人びとが共感と信頼によってつながり、共に活動する「新しいまちづくり」がひとつひとつのつながりを再生する役割を担うことだと考えます。</p>
<p>・毎年各町内会等から市へ要望書を提出しているが、その要望事項に対する回答（出来る理由、出来ない理由）が十分になされていない。（最近はずいぶん良くなっているような気がします。）</p>
<p>・ドイツのある町では、地域の小さな公園を作るにも市長が地域住民に予算を提示し、どんな公園にしたいかアンケートをとり、住民の希望と予算を考慮した上で作り上げています。そして完成した公園は立派なものではなく、毎年1つずつ遊具やベンチが増えていくという進行形型の公園で、住民が大切に育てています。私達市民もみんなが携われる何かをしたいと思っています。特別の人達が特別のことで下さるのもありがたい事ですが、誰もが出来ることをやれるのも素晴らしい事だと思えます。</p>
<p>・行政との意見交換等の場を積極的に持ちたい。</p>

<p>・様々な分野で色々なサービスを提供されているけれども、それが知られていないケースが多いように感じられる。情報の発信方法を考え、コーディネートする人がいたらもっと良くなると思う。そうすれば現有する資機材が活用されると共に、担い手が活躍できる場も増える。</p>
<p>・高山市では毎年広報づくり研修会がありますが、社教の役、例えば教養部、体育部、環境部等、市で取組んでいる内容や、内容充実に対する説明会などその部にあった研修会を開催していただくと役に当たった人たちを含め大変勉強になるのではないのでしょうか。</p>
<p>・市民が考えて出した意見も行政がシャットアウトするので前に進めない！！予算などすべてが市民に通じていない。すべての決定が行政なので、これからは市民の代表が決定できるようなまちにして欲しい。</p>
<p>・じわじわと押し寄せる少子化、急激な高齢化の進展、更に人口減少が予測される将来、生きがいのあるまちづくりをどうすすめるか、今まで人類が体験しなかった出来事にどう対応するか、極めて困窮する事態到来である。こうした中、今後のまちづくりについて、有識者、役職等の一部の意見ではなく、老若男女の幅広い意見集約が必要である。いかにして引き出すか。それぞれのニーズを把握し、整理・分析して市民、行政の役割を考慮し進める。まとめ上げる過程で行政の支援が不可欠でありぜひお願いしたい。呼び掛けに「まちづくり」だと難しく敬遠されがちになるので、具体的に語りかけるように発信してはいかがでしょうか。</p>
<p>・行政主導から各任意団体（NPO法人含む）の自立を求めるが、NPOが自助努力でできない面が多くある。資金経済の面では補助金制度のある業務もあるが、環境・自然・安全に関するNPOへの補助は少ないと考えている。行政、地域への提案にも一部限られた役員（人達）が重複して参画しているのが実情です。幅広いNPOや一般人から意見を聴き、各NPO、市民活動者と連携するよう要望します。</p> <p>また、各団体が独自の活動を行っていることは尊重し、必要により目的の異なる団体などと気軽に連携できる方策も必要と考えています。</p>
<p>・活動を推進、充実させていくために、運営に関する情報を頂けたらありがたいです。10名ほどのスタッフで運営しているのですが、この5年間でいろいろな所（行政含む）からの依頼を受けて活動の幅が大幅に広がり、もはや皆の善意とボランティア精神に頼るのみではちょっと立ち行かない状況になってきております。継続的に活動を行っていく為というより、更に発展的かつ、より地域と子育て環境に貢献できるような活動を行っていく為には、せめて、頑張ってくれているスタッフの持ち出しが出ないような金銭的援助が必要と思います。行政に資金面の援助をお願いするのではなく、様々な企業や団体からの補助金、助成金（多少人件費も計上できるような）が全国にはあると思うのですが、そういう情報や補助の取り方などを教えて頂けたらありがたいです。</p>
<p>・今回、子育てコミュニティスペースを開設させていただいたのですが、準備をさせていただくにあたって、必要備品などの調達に大変難儀いたしました。行政や社教に「〇〇ってどこからお借りできませんか？」と聞いても「ちょっとないですね・・・」という回答でしたので、できれば無駄な出費を少しでも抑えるためにも、「軽トラックだったら〇〇からお借りできますよ」とか「テントは〇〇から借りられますよ」という情報を持っている窓口があったらありがたいです。もちろん、私どもの持っている物品（マットやキーボードなどの備品）も、必要な所にはお貸しできますので、そういう情報を団体間で共有できたら・・・と思います。</p>

<p>・各種団体がそれぞれの事業を実施しているが、類似する事業があるので、横の調整を行う方がいるとよい。イベントについても発表されてから知るものもあるが、共同して行うとより良いものになると思う。</p>
<p>行財政運営</p>
<p>・市民生活への行政の姿勢は今は十分と考えます。（贅沢を言い始めるときりがない。あまり市民、町内会の細かい要求は、聞く必要はないと思います。）</p>
<p>・本当に必要な所にお金が回らず、そうでないところに無駄な税金がたれ流されている。（例）天下り、公社等々・・・</p>
<p>・支所地域の意見や考え方が本庁に届いているかも不安ですし、支所の権限強化も必要と思います。早めの対応をお願いします。第八次総合計画ではコンパクトで現実味のある計画をお願いしたいと思います。（合併まちづくり計画のハード事業は、ほとんどカットされ、合併時の約束事ができていません。）</p>
<p>・合併後、各支所地域の特色を生かすための地域振興特別予算が創設され、各種イベントや伝統文化など、地域の各種団体が力を合わせて実施してきました。ところが、平成27年度以降特別予算が終了することや、年々予算がカットされるなど、支所地域は段々やる気、元気が無くなってきていると感じています。特にイベントはもう全部やめた方が良く言われます。（あきらめムードで・・・）現在困っているのは、今後地域イベントや伝統行事ができるのか、今まで継続してきたものがなくなってしまうのではという不安、不満がいっぱいある事です。旧市内のような財力、組織力はありません。だからこそ地域を守るには市の援助が必要なのです。</p>
<p>・行政職員の資質向上。市役所業務についての再認識を市として真剣に取り組み、市民のための職員として精勤してほしい。（どちらかという組織的な問題・・・）予算→支出・・・あるお金を使っていくという感覚ではなく、売上→経費・・・生み出したお金をコスト意識を持って使っていく民間の思考を実感してほしい。</p> <p>・一部の専門家（審議会委員、アドバイザーなど）の提言や意見をそのまま政策等に反映するのではなく、職員（行政）レベルでの方針や方向性、他の専門家からの意見なども踏まえて慎重に（考えて）物事を進めてほしい。短絡的な取り組みが増えているのが心配。</p>
<p>・すべての市民の要望を把握、実現することはできないと思いますが、その努力は必要だと思います。その為に、市民の声に耳を傾けられる職員を今以上に増やして頂くようお願いします。建物、道路などハード事業は大切ですが、維持が大変です。次世代のために、人材を育成していくシステム作りを検討されることを望みます。</p>
<p>・高山市を変化させるのは「人」です。10年・20年・30年後の高山市の状態を予測した各種のインフラが必要だと思います。</p>
<p>・市民活動部署を各部署を越えた横断的権限を与えたものとする。横のつながりに配慮して動きが鈍くなるのを防止するため。市長直属の部署とする。町内会と市民活動を同じ部署にしたのは、正解だと思う。しかし、まだ横の連携にひと手間かかりすぎるのではないか。人材育成を担う事が出来る団体に事業を委託する。高山市は、公権力を発揮する必要のあるもの以外は、民間に任せられる方向をめざしてほしい。抱え込んでも新しい動きは出てこない。また、社会構造の変化が市民活動の生まれてきた背景にあることを職員に教育して下さい。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・広い高山市を平等、公平に扱うことが無理な現状です。地区に合わせた活動を住民主導で進めて行ける仕組みが必要だと思います。例えば、上宝や荘川の問題を市街地の人々に考えろということが無理なことなのです。周辺地域に過疎地域対策センターを作り、過疎の問題を総合的に取り扱う機能が必要ではないでしょうか。
<p>その他</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・高山が観光で有名になる一方で、「観光地化しすぎ」との声も聞きます。今の高山を大切に引き継いでいくことができれば！と思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・これから10年後、1/3、それ以上の人が高齢者になり、年金収入で生活する人が増加し、閉鎖する店が多くなり、静かな高山市になるのではないのかなと思います。郊外の独居老人等は、冬期には市中心部に集合して生活する等合理的な対策が必要だと思います。人口が減少して静かな高山市になることは仕方のないこととして、「マグネット高山市」になれるような取り組みイベントをいろいろやる。全国大会のようなものを呼び込む。ウルトラマラソンいいと思います。文化活動呼び込む。人々を引き付ける動きを続ける事が大切だと思います。市民のゆるやかなネットワーク、仲間づくり、他者を評価できる場作り、疎外される人の少ない社会を望みます。成熟した社会になってほしいです。大企業の工場を呼び込む活動は美濃加茂の事もあるし、リスクがあるかなと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・日本が今置かれている人口、子ども、工業、商業などの状況は、高山にもあてはまっているので、今後、人口等が減少して、今我々が住んでいる状態も大分変わってくると思われます。町の状況はそれでも、いつも道路に人が歩いている事が大切です。そこで町づくりとしては、やはり、高山は歴史的文化都市であるということをおもひながら認識すべきです。工業も農業も又観光も・・・色々な要素を含め、高山が人が好んで来てもらえる状態を常に考え維持することが大切でしょう。古い町並と農村風景、手工業を主にした風景が一体となっているように、まずは、「高山市総合観光委員会」を作り、色々な分野の人々が一体となってまちづくり計画を練りできる事から実行していくことです。今一番考えるべき事は、若者の高山定住です。子どものために精一杯の事を行い、新しい日本のまちの姿づくりを行うように、今からそれぞれが目標を持って事に当たってください。
<ul style="list-style-type: none"> ・奥飛騨温泉郷は、壮大な3,000m級の北アルプスが存在し、温泉湧出量も日本第3位を日本有数の観光地と自負しておりますが、趣味娯楽の多様化、景気低迷に伴い、観光客が激減しております。この奥飛騨温泉郷の多数の住民は、観光業、建設業に関係した仕事で日々の生活が成り立っております。治山治水、インフラ整備ができて、初めて安全安心にお客様を迎えることができると思います。書面上の恰好の良い言葉ではなく、奥飛騨温泉郷は、この観光業と建設業で成り立っておりますので、日々の生活に密着した、これらのどちらもうまく回るようなまちづくりを希望しお願いします。
<ul style="list-style-type: none"> ・中学卒業後の高校生、若者、若い子育て世代の生活や、経済面・生活面でのサポートが強化されること。
<ul style="list-style-type: none"> ・東海地震に伴い安全安心な街をアピールすることは、地域活性化に大きな役割をもたらすと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・「高山」のまちの魅力の向上（また行きたくなる観光地、住み続けたいまち、他所の人に自信をもってすすめられるまち）→大都市の郊外のような「どこにでもあるまち」ではいけない。が、市西部や駅前などでは、そのようになってきている。 ・景観の統一 → 市の個性をつくる。

<ul style="list-style-type: none"> ・素の高山市を見せる → 観光エリア、生活エリアの融合 ・若者にも魅力を感じてもらおう → プレミアム性、オリジナル性を高める。 → 雇用の創出＝海外も含めた企業誘致。 ・現在の高山市は他と比べたら魅力があると思うが、あちこちで観光に力を入れ始めている今、「どこにでもあるまち」に成り下がる危機感がある。
<p>・市内中心部（特に駅前から国分寺通り、本町通り、安川通り）の統一感のない風景への悪化は、一日も早く行政が介入し、取り組まなければならない重要課題であると思う。市内には市民の憩いの場となるような公園が少ないため、高山城の再建とその周辺の公園開発が、今後のまちづくりの百年の計につながると思う。</p> <p>市民や団体レベルでの話し合いは必要であるが、市長や議員等の立場からの発案を市民は期待していると思います。</p>
<p>・高山城本丸の再建について議論があると思いますが、私はいいことだと思います。姫路城、名古屋城、松本城、大阪城、金沢城などすべてまちの中心にあります（というより、後世、城のあった付近に都市が栄えたためらしいですが）。岐阜城は山の上にあってもロープウェイが必要。ですから、高山城が山の上にある、徒歩で行けるとなれば日本でも珍しいのではないかと思います。頂上まで車でなく、今のままで、高山城の本丸だけでも再現できたら、城山公園を含めハイキングコースとして多くの観光客をひきつけるのではないかと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・世界に通ずる「飛騨高山」を世界遺産へ。「高山城づくり」。人の城、文化の城づくり。
<ul style="list-style-type: none"> ・景観保全地域は固定資産税が高いですが、少子高齢化も進んでいます。一定面積以上の建物で、保存会が若手を集めて空き家、高齢者住宅を雪おろしする場合の補助金を考えてほしい。 ・旧市街地に住む場合のメリットをもっと増やして欲しい（20年以上住居の場合、固定資産税を減免するなど）。祭礼などの費用がけっこうかかっています。
<ul style="list-style-type: none"> ・各町並保存会単位に活動拠点となる家屋（休憩所を兼ねる）を配置してほしい。（空き家対策にもなる。）
<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで作る高山市。知り合いの知り合いが・・・とたどっていくとみんなつながっていたり、地域の輪（知人のつながり）が良い環境、良い助け合いをささえていると思う時がよくある。都会とちがって近所の顔がわかる地域の良さを生かしてまちづくりができるといいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・全市的なまちづくりには、少なくとも旧高山市内が同じ歩調水準にあることが望ましい。一地区（地域）のみでは統一性がなく、不調和なものになる。 ・特に観光を全面的に支援するのであれば、郡部は里山や特産品を前面に出しアピールするとよい。
<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消！もっと地元の人材活用を。よそからの人を過大評価しすぎ。大切な地元の人材を殺している傾向があります。足元の今までの人達を大切に。
<ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくり」を考え行動し実践できる若者の養成。 ・ボランティア活動の精神と実行力を高める工夫。 ・熱意ある人が集まり、満足感・達成感を得て（評価があつて）拡大するような方向付けが必要。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々が楽しいこと。 ・ある程度の経済的支援。（ささやかでよい） ・地域内のみでなく他の地区と合同実施。（競争意識も大切） ・行政職員も積極的な参加。（一般市民の立場で）

